

留学先国名 : デンマーク

留学先学校名 : コペンハーゲン大学

留学期間 : 平成 27 年 2 月 3 日 ~ 平成 28 年 1 月 22 日

一年間の留学では主に語学力と異文化理解力について自信を深められたと思います。留学中の主な使用言語だった英語に関しては何度も挫折を味わうことになりました。アカデミックな高度な英語に馴染みがなかった留学初期は、授業内容が全く理解できず準備不足を痛感しました。しかしそこから一念奮起し聞き取れるようになるためにできることをリストアップし一つずつ実行していきました。たとえば CNN や BBC を時間が許す限り聞き続け社会的な内容に耐性をつけました。また、通学中自転車をごきながら一人英会話をすることで覚えた表現を刷り込んだり、静かな公園で聴解能力そのものを伸ばすトレーニングを行ったり、音韻学のクラスをとって理論的にアプローチしたりもしました。これらの地道な取り組みの成果が生まれたのか、徐々に理解度は増し、留学が終わるころにはストレスなく英語を操れるようになりました。帰国後はすぐに実用英語検定一級を受験し、一次試験を突破、二次試験は先日、確かな手ごたえを持って終えることができ現在朗報を待っているところです。日本人にとって英語という言語学的にも文化的にもきわめて特異な言語を高いレベルで操る自信を得るといのはたとえ一年間の留学を経験したとしても 100 パーセント実現できることではないと思うので、自身の努力に誇りを持っています。

異文化理解力は非常に漠然とした言葉ですが、適応力という言葉に近いと考えております。海外で暮らす中で、日本との習慣の違いのために、ついイライラしてしまったり、どうしてもなじめなかつたりすることがあると思います。実際に、労働に対する価値観の違いのためか、ある施設のオフィスアワーが極端に短く困ったことや、デンマーク人のあっさりとして時に淡泊すぎるとも感じる性格に物足りなさを感じたことなどもありました。しかし一年の滞在の後思うのは、価値観の違いから良し悪しを決めてしまうことほどの思考停止はないということです。文化の壁にぶつかったとき大切なのはそれを忌み嫌うことでも避けて通ることもなく対話して違和感を解消しておくことです。文化の壁にぶつかったとき助けてくれるのもまたその国の人々だということをお忘れてはいけません。

以上のようにこの留学で培った語学力と異文化理解力は今後のキャリアにおいても最大限に生かしていきたいと思っています。海外で困難を乗り越えつつ語学を体得し、適応力を発揮した経験というのは間違いなく私の強みの一つであるとともに私のアイデンティティの少なからぬ部分を形成しています。目下に迫った就職活動でそれは必ず役に立つでしょうし、卒業後のキャリアにおいても、そんな自分に適切なものを選んでいくつもりです。具体的には報道の記者になって海外に駐在することが夢です。今回の留学で世界はほとんど狭くなっていると感じたと同時に日本に帰ってきてみて日本は国内で完結していることが多いと感じることもありました。外国人と接する機会自体がまれであるし、海外の影を日常生活で感じることも余りありません。それは地理的に孤立した位置にある島国の宿命であるのかもしれませんが、世界が狭まっている以上日本人はもっと海外で起きている出来事にも関心を持つべきだと思うし、日本にない概念を輸入す

ることで生活が豊かになるはずです。デンマークのオフィスアワーが短いことや働きすぎ感がある日本にとって新鮮な概念になりうるのではないのでしょうか。そんな思いから私は自分が培った海外への適性を生かしてまだ日本で知られていない海外の知見や世界の動向を報道を通じて発信したいと考えております。

最後にこれから留学に行かれる人たちにメッセージを送りたいと思います。留学というのは非常に大きな困難を伴うものです。特に多分に特殊でユニークな文化を持つ日本人は世界中どこに行っても必ず、言語や文化の壁にぶつかると思います。でもそんな時、どうしたらそれを乗り越えられるか、徹底的に自分に向き合っ、あらゆる方策を尽くしてください。その結果状況が改善されたならその経験は必ず財産になります。留学を志す以上、挫折を経験することは覚悟してください。でもそれ以上にかげがえのない冒険が待っていることを保証します。